おおふなと
社協だより

2018年 12月号

ふれあいネットワーク

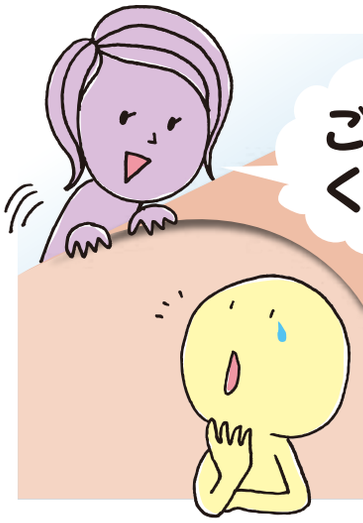
ホームページの「今日のにこにこ」も見てけらっせん。

http://ofunato-shakyo.com

今月の表紙

新沼里志さん・とん子さん
茂法さん・栄子さん
櫂我くん・櫂里くん・櫂史くん
（12歳）（11歳）（9歳）

【特集】ご相談ください。ここからセンター…2～3
出会い支援事業「しあわせ・どっと・こむ」……4
子育て講習会「足形アートをお家に飾ろう」……4
地域サロン「地ノ森二区公民館」……5
住民支えあいマップ作成会……5
お知らせ……6～7
輝き人……8



生活困窮者自立相談支援事業・
就労準備支援事業

ここからセンター

年間100件以上の相談

自立相談支援窓口「ここからセンター」には年間100件以上の相談が寄せられます。相談の内容は多岐（表1）にわたっていますが、経済的に困窮している、心身のバランスを崩しているため働くことができないなど、誰にも相談できずに悩みを抱えている人からの相談が多いことが特徴です。その背景には核家族化が進み、経済面だけでなく子どもの養育など親族で支えあってきた支援体制が望めなくなってきている現状があります。今後ますます相談機関としての役割を果たしていくことが求められていると感じています。

センターでは平日午前8時30分～午後5時まで相談を受け付けているほか、時間外も専用電話で緊急対応しています。本人以外からの相談も受け付けていますので、親族、友人の他、民生児童委員を通して相談することもできます。

相談経路をたどってみると、本人からの相談に次いで関係機関や民生委員から情報が寄せられることが多く、地域内や近所同士で関心を持ち合い、早期発見につなげられるような地域づくりにも努めていきたいと考えています。

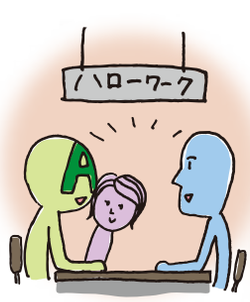
専門職員を配置

「相談支援員」が経済的な課題だけでなく、相談者が抱える様々な困りごとを聞き取り、本人の意向を尊重しながら支援計画を作成しています。支援の展開にあたっては、他機関との連携が必要不可欠で、貸付や就職支援を行いながら本人の目標達成を応援します。また、家族の介護に関する悩み、子育ての行き詰まりで悩んでいる場合など複合的な課題にも対応できるよう資格を持った専門職員を配置して、相談にあたっています。

実際の支援例

家族の病気や自分の失業により収入が途絶えたことから、就労に関する相談で来所したAさん。

相談を重ねていくうちに、消費者金融からお金を借りて生活していたため家計状況が悪化していることが見えてきました。そこで、センターの食糧支援で食費を減らし、弁護士への債務相談やハローワークへの就職相談に同行しながら課題を一つずつ解決していきました。



債務が膨らむ前に

自分の収入に見合った生活をすることは当たり前のようですが、会社の都合で退職せざるを得ない、事故や病気が原因で仕事をすることができないなど、思いどおりにいかないこともあります。また、経済的な相談は友人などには話しづらいものです。その場を凌ぐために、金融機関や消費者金融からお金を借りることも一つの方法ですが、借入金の利息を支払う義務が生じるため返済目途が立たないままでの借入は根本的な解決にはつながりません。行政サービスの利用や家計の見直しをすることで解決していくこともできます。

まずは相談機関に話してみることが解決の第一歩です。

【表１】
相談内訳（件）

収入・生活費	56
病気・障がい	22
仕事	19
住まい	16
債務	10
食料	10
税金	9
家賃・ローン	9
家族・人間	7
子育て	6
引きこもり	4
ＤＶ・虐待	4
地域	2
介護	1
その他	33

就労までのお手伝い

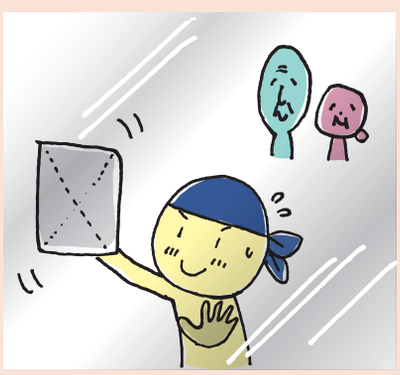
相談者のなかには、仕事に就けない、就職しても継続性を保てないなどの課題を抱えた人も少なくありません。原因は様々ですが、共通して言えることは焦り過ぎず長期的な視点で生活の立て直しを考えることが必要だということです。センターでは相談者の生活状況に合わせ、昼夜逆転している生活サイクルの改善や習慣づくりからスタートして、定期的に通う場所の確保やボランティア体験などを重ねることで自信を身につけながらステップアップを図っています。

ボランティア体験では、一人暮らし高齢者宅の窓ふきや草刈り作業を手伝うことで潜在している就労意欲を引き出し、やりがいや労働の充実感が得られることを大切にしています。

昨年度は３人が一般企業に就職し、現在も就労を継続しています。

ボランティア体験に参加した人の声

普段、家の中で過ごすことが多く、就職活動をしても不採用になるばかりで気分が落ち込みがちでした。暑い中での作業は大変でしたが、体を動かすことでリフレッシュできたし、依頼者に喜んでもらえたので、人の役に立てたかなと感じました。



相談先・お問い合わせ

自立相談支援窓口

ここからセンター

☎0192-27-0001
（大船渡市Ｙ・Ｓセンター内）

時間外　０８０−９２５７−７２４４
　　０８０−９２５７−７２４５
メール　cocokara@chorus.ocn.ne.jp

出会い支援事業「しあわせ・どっと・こむ」
2組のカップルが誕生

12月1日(土)に、出会い支援事業第2弾「しあわせ・どっと・こむ」を開催しました。

イベント前、参加者は男女別の「自分磨き講座」を受講。心構えや会話のポイントを学びながら、緊張をほぐしていきました。女性の希望者には、美容師によるヘアセットも行われ、華やかにイメージアップ。「自分ではできないので、綺麗にセットしてもらい嬉しかった」と好評でした。

クリスマス仕様に飾られた会場で、イベントを楽しみました。

イベント会場に移動し、男女がご対面。アイスブレイクでは絵合わせゲームを行い、挨拶をしながら、同じ席に座る相手を探しました。参加者全員でクラッカーを鳴らしてにぎやかに開会した後は、美味しい料理を食べながらテーブルトークを楽しみ、1対1のトークタイムでは、お互いに自己アピールを行いました。最後のフリータイムで気になる人との会話と時間を共有した結果、2組のカップルが誕生。この2組には市内のレストランで使えるお食事券を贈呈しました。

参加者からは「普段なかなか異性と話す機会が無いので、色々な人と交流できてよかった」「緊張していたが、スタッフが力になってくれて楽しく参加できた」との感想がありました。

社会福祉協議会では、過去の出会い支援イベントがきっかけで結婚されたカップルに記念品を贈呈しています。嬉しいご報告をお待ちしています。

足形で思い出に残る作品を
子育て講習会「足形アートをお家に飾ろう」

つどいの広場わいわいステーションでは、子育てに関する不安の解消と、子育て中の人たちの交流とリフレッシュを目的として子育て講習会を実施しています。11月28日(水)の子育て講習会は、「足形アートをお家に飾ろう」がテーマで、ペタペタアートアドバイザーの島田尚子さんを講師に13組の親子が参加しました。

ペタペタアートは、子どもの手形や足形をさまざまなモチーフに見立てて作品を作ります。子どもの成長記録になることはもちろん、製作活動を通して親子の愛着形成を育むことにもつながるそうです。今回は、黄色の足形から思い思いの可愛い「ひよこ」のアート作品づくりに挑戦しました。

お子さんの足形がかわいいひよこに変身します。

子どもたちは足の裏にインクを付けられる感触に少し戸惑っていましたが、どの親子もきれいに足形がとれました。その足形へ目や手足を書き込み、マスキングテープやシールなどで装飾し、名前やコメントを書き込んで思い出に残る作品に仕上げました。

講師の島田さんは、6歳のお子さんを持つ子育て中のお母さんです。今年8月にアドバイザー資格を取得し、今回が講師として初めての活動でした。

「お母さんたちから感謝の声をいただけて嬉しかったです。初めてで緊張しましたが、やって良かったです」と話していました。

参加者からは、次回の開催を心待ちにしている声が多く聞かれました。

体力維持＋お茶会＝元気な地域

地ノ森二区公民館

大船渡町の地の森二区公民館（金野紘一館長）では、コミュニティの再生を目的にサロン活動や住民交流会を開催しています。「震災で世帯数が減り、公民館も全壊したので、震災前に比べて地区の人たちが顔を合わせる機会が減った」と話すのは、サロン世話役の四役恵子さん。震災後、不定期でサロンを開催してきましたが、定期開催を望む声を受け、今年9月からは毎月開催しています。

リズムに合わせ背中をトントン。
笑顔の輪が広がります。

サロンは「カリタス大船渡ベース地ノ森いこいの家」を借用しており、活動は「3B体操」が中心です。「3B体操」とは、「B」からはじまる3つの道具を使うリズム体操で、この日も14人がこの体操を楽しみました。

「みんなと集まる機会ができて嬉しい。あまり激しくない体操なので続けられています」と、参加者の山崎牧さんは話しています。

10月にはサロン参加者以外にも広く声をかけ、震災後初となる住民交流会「ボッチャ交流親睦会」も開催しました。会場には、たくさんの参加者が訪れ、福祉の里センター職員の指導を受けながら、ニュースポーツの一つである「ボッチャ」を楽しみました。参加できなかった世帯には、見守りを兼ねてお弁当を配達したそうです。

四役さんは「これからもできることを無理せず続けていきたい」と今後の活動にも意欲を見せていました。

マップ作りはきっかけづくり

住民支えあいマップ作成会

日頃市町鷹生地域では、住民支えあいマップ作りに取り組んでいます。

住民支えあいマップとは、住民のふれあいや助け合い活動を記した地図のことです。このマップを作ることで住民同士の関係性を視覚でとらえることができるので、支援が必要な人や地域の困りごと、地域資源の活用について考えやすくなります。また、時期や参加者を変えて同地域のマップを作ることで、地域の状況の変化や新たな課題の発見につながることもあります。

手つきを見せてもらいながら、
熟練の技術を教わりました。

10月に行われた2回目のマップ作りでは、地域に食の匠などの料理名人が居ることが話題に挙がり、その人を先生にして昔ながらの「柳だんご」作りをすることが決まりました。

当日は10人が集まり、粉の配合割合やザラメを使った秘伝のたれの作り方を教えてもらい、大きな鍋一杯に柳の葉の形をしただんごが完成しました。

マップ作りから参加している伊藤ムツ子さん（70代）は「長く住んでいるのに地元のことが分からなかったので、参加して良かった。なめらかなだんごの作り方を教えてもらえて、とても勉強になった」とのこと。この日の先生を務めた伊藤千代子さん（80代）は「みなさんに喜んでもらえて良かった。今度は他の名人たちのきびまんじゅうやがんづきを作ってみたい」と話してくれました。

●このサロンは赤い羽根共同募金の助成を受けて実施しています。

おでかけひろば

出張「つどいの広場」です。乳幼児の子育てをしている人ならどなたでも利用できます。

日　時　毎週火曜日午前10時～午後３時
場　所　大船渡市防災観光交流センター２階和室

※慢性・先天性疾患、低体重出生児、発達障がいなど配慮が必要なお子さんのためのおでかけひろば「ゆるり」は１月23日（水）（午前10時～正午）に開催します。

＊岩手県福祉人材センター情報

介護のしごと相談

キャリア支援員が介護の職場に就職したい方などの相談に応じます。相談を希望する場合は、事前に連絡をお願いします。なお、11日については、お子様連れでも相談できます。

介護のしごと相談日程（１月）

開催日	場　所	時　間
7日(月)	Ｙ・Ｓセンター	午前9時～午後4時
8日(火)	防災観光交流センター2階	午前10時～午後3時
10日(木)	ハローワーク	午前10時～正午
21日(月)	Ｙ・Ｓセンター	午前9時～午後4時
24日(木)	ハローワーク	午前10時～正午
28日(月)	Ｙ・Ｓセンター	午前9時～午後4時

申込・問い合わせ先
岩手県福祉人材センター　坂本さん
電話　080－8201－0200

＊就労準備支援事業情報

フリースペース

就労準備支援事業では 15 ～ 65 歳のお仕事をされていない人で、「働く」ことに不安や悩みを抱えている方を対象に、体力づくりの機会をつくっています。参加を希望する人は事務局までお申込みください。

日　時　毎週木曜日
午後１時 30 分～３時 30 分
場　所　大船渡市Ｙ・Ｓセンター
内　容　卓球、スポーツ吹矢ほか
持ち物　上靴（動きやすい服装で参加してください）

＊ボランティア活動センター事業情報

中高生ボランティアスクール

下記の日程で中高生ボランティアスクールを開催します。参加を希望する人は事務局までお申込ください。

日　時　１月９日（水）
午前 10 時～正午（受付９時 30 分）
場　所　大船渡市防災観光交流センター多目的室
定　員　大船渡市内に居住する中・高校生

「募集」「イベント」「お知らせ」など暮らしに役立つ情報をお届けします。

申込・問い合わせ先　大船渡市社会福祉協議会
電話 0192(27)0001（代表）

＊支えあいまちづくり事業情報

陽だまりサロン

誰でも参加できるサロンです。ご近所お誘いあわせの上、お近くのサロンへお越しください。

時　間　午前10時～正午(猪川地区公民館でのサロンは午後１時まで)
内　容　血圧測定、軽体操、ゲーム、手芸、お茶っこなど

陽だまりサロン日程（１月）

開催日	場　所
9日(水)	崎浜地区公民館
11日(金)	吉浜地区拠点センター
16日(水)	鷹生公民館
18日(金)	下中井公民館
22日(火)	猪川地区公民館
25日(金)	綾姫ホール

＊子育て支援事業情報

つどいの広場内イベント

下記の日程でイベントを開催します。お気軽にお越しください。

場　所　大船渡市Ｙ・Ｓセンター

つどいの広場イベント日程（１月）

開催日	内　容	時　間
9日(水)	ともみんの健康相談	午前10時～正午
10日(木)	はじめてさんの日	午前10時～午後４時
	成長記録カード作り	午前10時～正午 午後１時～４時
11日(金)	成長記録カード作り	午前10時～正午 午後１時～４時
16日(水)	ぼうさいカフェ	午前10時～正午
17日(木)	ハローワークお仕事相談会	午前10時30分～正午
	わいわいトーク	正午～午後１時
24日(木)	かすみんの栄養相談	午前10時～正午
31日(木)	ママのための自力整体教室	午前10時～11時30分

大船渡市Y･Sセンター ボイラー工事に伴う一部休止について

ボイラー更新工事に伴い、Y・Sセンター館内施設の利用を一部休止します。ご迷惑をお掛けしますがご協力をお願いいたします。

休止期間　1月5日(土)～3月3日(日)
休止設備　プール、浴室、シャワー室

大船渡市社会人サークル「Irvine(アーヴァイン)」会員募集中

Irvine（アーヴァイン）は、地域の企業・団体が協力して設立し、スポーツ、料理、教室、講座、交流会など、様々な活動を通して楽しみ、新たなつながりを作りながら地域を盛り上げていく、登録制のサークルです。

入会金、登録料　無料
申込・問い合わせ先
大船渡市社会人サークル
電話　0192－22－7581
（午前10時～午後6時 定休：火曜・祝日）

ホームページで社協活動を日々更新中です。

http://ofunato-shakyo.com

内　容　講演、グループワーク
講　師　シンガーソングライター　森源太氏
　　演題「オイがボランティアを続ける理由」
申込締切　1月7日（月）

＊写真洗浄事業情報

思い出の写真展示・返却会

東日本大震災で被災した写真を持ち主の人へお返しする被災写真の展示・返却会を開催しています。ご自身やご家族の写真を見つけましたらその場でお持ち帰りできます。

日　時　12月27日（木）まで
　　午前9時～午後9時30分
　　（最終日は午後4時まで）
場　所　大船渡市防災観光交流センター
　　展示室
内　容　被災写真の展示・返却

＊Y・Sセンター情報

大船渡市Y･Sセンター年末年始休館

12月28日(金)～1月4日(金)まではY･Sセンター全館休館となります。

今月の表紙

新沼里志さん
とん子さん
茂法さん
栄子さん
櫂我くん（12歳）
櫂里くん（11歳）
櫂史くん（9歳）
（日頃市町在住）

野球に夢中の新沼3兄弟。里志さん、とん子さんも毎週、孫たちの試合に駆けつけます。先日の試合では兄弟そろって先発出場。3人が同じチームで一緒にプレーできるのは今しかできないことなので、とても嬉しかったと話してくれました。

□1月号課題「雑詠」
□締め切り
　1月4日(金)**必着**。
　1人1句。
　(自信作をひとつ)
　はがき使用。
□投句先
　立根町字下欠125-12
　「Y・Sセンター」内
　大船渡市
　社会福祉協議会
　「ふくし川柳」係
□その他
　作品によっては、添削する場合もあります。投句者の氏名にはフリガナをつけてください。

「ふくし川柳」

課題「壁」富谷英雄 選

黒ずんだ家の年輪壁の色　赤・佐々木敦子
子は巣立ち壁の落書き懐かしむ　末・滝田澄子
この先は俺が守ると壁になる　赤・志田トミ
目に見えぬ壁と闘い生きてきた　越・平田栄夫

《佳作》

震災の　壁のり越えた　街あかり　立・武田みつ

（評）震災の壁を乗り越えた多くの皆さんの頑張りがあって、やっと街あかりが見えてきた。街あかりは私たちにとってはまさに〝希望のあかり〟なのである。

輝き人

田沢京子（たざわきょうこ）さん（65歳）

立根町在住。絵本に点字シールを貼った「点訳絵本」を作成し、市内公共施設や学校での展示会の開催、本の寄贈を行っている。

点訳絵本にワクワク感を詰め込んで

●点字との出会い

郵便局で郵便物の区分係として勤めていたある日、点字の封書を手にしました。「何て書いてあるんだろう」封書を手に取るたびに思いは募りました。

平成8年に点字講習会に参加し、新聞の点字版を購読してみましたが、とても難しく長続きしませんでした。

そんな時、新聞で絵本を点訳している人の記事を目にし、「私にできるのは、これだ」と、この活動を始めました。

●点訳絵本の展示会

私の点訳絵本は、透明なシールに点字器を使って手打ちし、それを絵本に貼って作ります。これまでに作成した点訳絵本は、150点を超えました。

みなさんが点字に触れる機会をつくれたらと思い、市内の小学校や公共施設、郵便局などで点訳絵本の展示会を開催したり、絵本を寄贈する活動もしています。

●子どもたちが原動力

小学校での点訳絵本の展示会は、これまで8回となりました。年齢的なこともあって、毎年、「今年で最後にしよう」と思うのですが、展示会での子どもたちの様子をみていると、「もう少し頑張ろう」と思えてきます。

点字の絵本に触ってみて不思議そうな顔をする子、点字を打ってみてキラキラと目を輝かせる子。そんな子どもたちの姿が私の活動を後押しします。

展示会には、感想を書いてもらうノートを持っていきます。名前と感想を書いてくれた人には必ず返事を書くのですが、今年はクリスマスも近いので、サンタさんにお願いして届けてもらおうと思っています。

●いつかサンタさんに会える？

「くまモン」がテレビに出始めた頃から大好きで、Tシャツ、靴下、クッションカバーなど、たくさんのくまモンに囲まれて生活しています。

震災後、市内のスーパーに、くまモンが復興支援で来てくれたことがありました。小さな子どもたちが握手をしたり、抱きついたりする中、くまモンは私を手招きし、抱きしめてくれました。大好きから大ファンに変わった瞬間でした。

「岩手と熊本は遠いけれど、いつか会えると信じることで会うことができた。きっとサンタさんにも、この先会えるかもしれない。」そんなワクワクする気持ちや、夢を諦めない気持ちを大切に、子どもたちには過ごしてほしいと思っています。

見つけてHappy

もういくつ寝るとお正月…の前に、12月はクリスマスシーズン真っ最中！今月の社協だよりの中に**サンタさんがこっそりプレゼントを届けに来たようです。**どこにいるか、さがしてみてね！

※表紙のにこにんは含みません。

おおふなと社協だより No.301 2018年12月 編集・発行／社会福祉法人 大船渡市社会福祉協議会 〒022-0006 大船渡市立根町字下欠125-12「Y・Sセンター」内
TEL 0192-27-0001 FAX 0192-27-0800
Eメール ooshakyo@cocoa.ocn.ne.jp
ホームページ http://ofunato-shakyo.com

「おおふなと社協だより」は、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）に基づく基本方針の判断の基準を満たす紙と植物性インキを使用し、共同募金配分金を活用して発行しています。